



**五輪・パラリンピック開催までに、
観光英語対応ドライバー300人の育成を目指します。**

TSTiE (タスティー) ドライバー認定制度

平成 27 年より「TSTiE ドライバー」の認定制度を設け、**英語による観光案内が可能なドライバーの育成**を進めています。

平成 28 年 2 月時点で 15 人の TSTiE ドライバーが認定されていますが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに 300 人の TSTiE ドライバー育成を目標としており、今後一層の増加が見込まれる海外からのお客様に対するサービスの向上に務めていきます。



TSTiE ドライバー認定ロゴマーク。
"Tokyo Sightseeing Taxi in English" を略して "TSTiE"。

TSTiE ドライバー認定の条件

〈Step1〉

- 東京シティガイド検定に合格していること。
- ユニバーサルドライバー研修を修了していること。

〈Step2〉

- 東京観光タクシードライバー認定研修を修了していること。

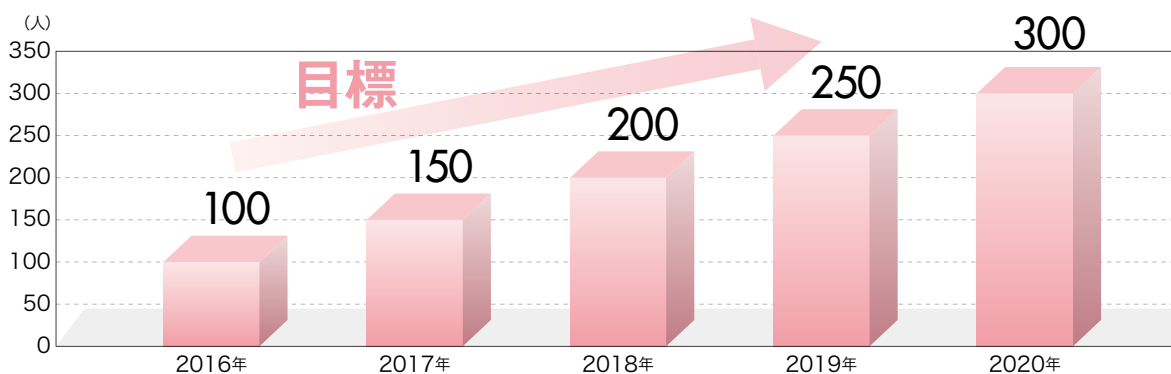
〈Step3〉

- TOEIC600点程度のスキルを持っていること。

〈Step4〉

- 観光英語対応ドライバー認定プログラムに合格すること。
(20時間の研修+スピーチテスト)

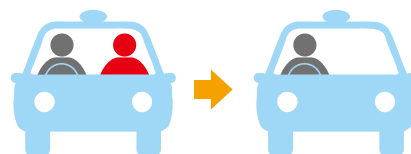
TSTiE ドライバー 目標人数推移



構造改革特区での提案

【外国語による有料観光案内サービスの拡大】

*検定や研修を受け、一定レベル以上の質の確保が確認できるタクシードライバーについては、通訳案内士の資格がなくても、有料で観光案内ができるよう関係部局へ提案中。



通訳の
同乗が必要
費用負担大

通訳の
同乗不要
費用負担小

外国人が気軽に英語で観光案内を受けられるようになり東京観光の魅力が向上